

筑波研究学園都市研究所・大学関係9条の会

9条の会 ニュース

NO. 20 2009. 1

名称：筑波研究学園都市研究所・大学関係9条の会

郵便振替口座番号：00120-4-501101

発行責任者：茅野徳治：TEL / FAX 029-857-6593

〒305-0023 つくば市上の室1829-1

第7回講演と対話の集い

日本の食料問題と憲法9条の価値

なぜ、日本で汚染米など出回っているの？大変な世界的食糧危機のときに、誰がどうして日本をこんな低自給率にしたの？なぞばかりの食料問題を考えてみました。12月7日（日）、大穂公民館で開催された第7回講演と対話の集いは、山本千秋代表世話人の、市民白書創りの運動の中から地元農業者の寄稿の紹介を交えた開会の挨拶のあと、中央農業研究センター平野信之氏の司会で進行されました。

基調講演には、消費経済がご専門の駒沢大学経済学部、姉齒 暁教授をお迎えし、「消費者の立場から見た日本の食糧問題と憲法9条の価値」と題して国内外の農業・食料問題

全般にわたって分かり易くお話しいただきました。

地元農業関係の研究者からは、森川辰夫氏（元農研センター 元弘前大学教授）から農業の生産現場の実態を中心に「日本農業の現状と再生への課題」について、池長裕史氏（農研機構中央農研 全農林筑波地本委員長）からは農業関係研究者のおかれた実態について「国立研から独法へ、農業研究は今どうなっているか」と題して話題提供がありました。

今回のテーマについては、多くの感想がよせられたので、姉齒先生の講演の要旨と併せて、紹介します。（澤田紀一）

消費者の立場から見た日本の食糧問題と憲法9条の価値（要旨）

駒沢大学 姉齒 暁

1. 日本の農と食の現状はどうなっているのか？

(1) 農・・・輸入増加と生産基盤の衰退：

①農家戸数の減少：265万戸（H7）から196万戸（H17）へ

②基幹的農業従事者の高齢化：65歳以上が57%へ

(2) 食料・・・食の安全・安定供給（食料主権）の危機

①カロリーベースの食料自給率がはじめて30%台に。

②食料輸入は世界一（4兆5,739億円/2004年）。

③1億人を超える国の中で最低

④世界175か国中124位（2005年）

⑤日本は貿易黒字国であるが、農産物についてはずっと赤字。

⑥2006年度の輸入は3410万トン、うち、農産食品・農産加工食品が7割を占める。

さらに・・・顔の見えない食料の大量流入と加工品偽装の続出
経済効率をとるか？環境問題はどうか？安ければいいのか？経済大国の価値は？
：新しい価値の創造の必要性に迫られる現代社会

2. 日本の農業政策の基本と日米関係＝対処療法になりやすい日本の農業政策

(1) 日本の社会・経済政策は輸出型工業中心

①日米両国の輸入における両者の位置；

★アメリカは日本の製造業にとって第一の市場

(アメリカの輸入上位100品目中、日本が1～3位：31/100品目)

★日本の製造業にとってアメリカは第一の市場

(日本の輸入上位100品目中、アメリカが1～3位：51/100品目)

—輸出型工業を中心に据えた経済中心の政策：農産物は二の次、むしろ工業部門の輸出拡大の犠牲—

(2) 限界を持った農業政策：自給率の低下は家庭と農民のせいなのか

輸出型製造業＝財界の要請と平和憲法という障害

①輸入食物の重要性

食品加工のための安い原料

安い食費で低賃金を可能に。

＝シーレーンの防衛をアメリカと共に。

②日米安保条約のもとでの食料・農業政策の限界

対米輸出の見返りとしての農業市場の開放

「食料・農業・農村基本法」1999年：2000年改定/カロリー自給率をH22までに45%へ！

「食生活指針」2000年

「『食』と『農』の再生プラン」 2002年

「食品安全基本法」2003年

食育基本法（2005年6月）

(3) 食育基本法＝骨太の方針<経済財政運営と構造改革に関する基本方針2005と同時>

—『食育基本法』と『骨太の方針』

骨太の方針：「人間力の強化」

グローバリゼーションに打ち勝てる能力を育てる（社会構造も人間も）—

ここにも「製造業＝競争力に打ち勝つ資本の論理」

3. そこで、人間の基本を“食”から考えてみる—現在の問題点と未来が見えてくる

(1) 人間はどこから来たのか？～本来の人間と食との関係

Homo Sapiens＝ホモ・サピエンス

*Sapientia*が語源 「味わう」 「あらゆるものを味わう（探求する）」

「賢明・知恵を有する」生きもの・・・

<食は文化><食は社会の鏡>

- 「あなたが食べているものを言ってみたまえ。
あなたがどのような人であるか、当てて見せよう」
- 禽獣は喰らい、人間は食べる。教養ある人として初めて食べ方を知る。
- 食卓こそ人が初めから決して退屈しない唯一の場所である。
- 新しいご馳走の発見は人類の幸福にとって天体の発見以上のものである。

ブリア・サバラン『美食礼』

そうだとすれば、「食文化」の崩壊は本当に家庭や生産者の責任？

(2) 「食文化」の疎外・退歩は「協働」「批判的意識」「希望」の喪失から生じている。

①人間だけがもつ「食文化」

②協力し合って自ら食物を作り出せる。

③食べ物を享受し吟味し、味わうことができる。

人間だけが共同社会のなかで自分達の価値観にもとづき、批判的意識や欲求、希望を持ち、食文化

を創造していくことができる。

(3) 「味わう」資質を育てる条件も危機的状況

①味わう＝知恵」の前提条件、基礎学力の不足

②労働時間の長さ和生活時間の短さ

③父母は残業、子どもは塾で「あてがいぶちの食事」へ
・・・家族で一緒に食べる時間が・・・ない

④学校給食の現場では「食」の指導が行える体制がとられているか？

⑤協働の条件も喪失の危機—ともに働き、互いの働きを認める。

⑥国内生産基盤は脆弱—そもそも協働の条件が崩壊

社会システムの問題では？

4. このままでは危ない「ショックな食（しょく）の話」

日本が WTO や EPA の国際通商交渉で農産物の関税撤廃を飲むとどうなるのか・・・(農水省試算)

食料自給率は 40 % から 12 % へ

国内農業生産：—約 3 兆 6 千億円 (現在約 8 兆 5 千億円)

国内総生産 GDP：—9 兆円 (現在 504 兆円)

就業機会の喪失：—約 375 万人分 (現在の農林水産業就業者数は 281 万人程度)

「国境措置を撤廃した場合の国内農業などへの影響試算」2007年2月26日公表

<消費者にとって>消費者は？：増える輸入農産物に不安！：9割

輸入食品の検査率

調べられたのは？

約1割：水際チェックの簡便化・・・ここにも安保条約の陰が・・・。

(1) すべてが競争に巻き込まれる社会は持続可能か？

①金持ち日本でも、食べ物が手に入らなくなる日

中国：1997～2005年の間に、小麦の生産が30%減少・・・

理由は地下水の枯渇

● 毎年8億5千2百万人が貧困と飢餓に苦しみ、500万人以上の子どもたちが死亡・・・
しかし、水がないため、食料生産が出来ない

● 200グラムの牛肉生産のために必要な水・・・2万5千リットル

● 2025年までに安全な水にアクセスできない人・・・30億人 (世界水会議)

②仮想水という考え方：

農産物の輸入は、土・いのちを輸入すること

例えば、ブラジル産牛肉とひきかえに・・・無くなった森は 5870万ha (2000年)

★コメを輸入している場合ではない。

世界で飢えている人は 8億人

★2030年には途上国全体で約2億7千万トンの輸入が必要

コメ・・・世界レベルでは、不足

5. アメリカ型競争社会がすべてではない—世界の模索

①世界の農産物輸出国では、保護貿易へと方向転換中

● ベトナム：輸出用米生産から、果樹、野菜、家畜、魚などの多角経営への転換へ

● インド・バングラデシュで、有機農法と家族経営の復活へ

● 中国は、自国の食糧保護へ、アフリカと連帯

- キューバは有機で野菜を100%自給へ
 - 南米・中南米では反アメリカの大統領が続々
 - 日本でも、消費者の間に常に、確かな国産への回帰が・・・。
- ② Food Sovereignty (食糧—食料主権) という考え方

- 持続可能な食と農へ
- 競争ではない、もう一つの価値の創造
- 農業保護は当然である。
- 地域に即した生産・流通・消費のあり方を、地域で決定する権利
- 外的圧力を受けない、内発的発展へ—みんなで考え、みんなで実現する。

戦争は農業も、生態系も、環境すべてを破壊する。

参加者からの感想：

・姉齒先生の講演は、人間の命にせまるすばらしい講演でした。9条は日本の宝、農業は日本の宝としてともにリンクしたわかり易い講演でした。

・3人の方々の講演はすべて興味深かった。
・食文化を基盤にした、とても明快なお話で、大変勉強になりました。食糧自給率40%について今後とも考えてゆきたいと思っています。

・暫新な切り口からの話に感銘しました。なんとしても日本農業を再建させたいね。

・大変勉強になりました。実家が農業ですので、この間の農業（農家）の現状は本当にひどいものがあります。何とかしたい。平和を守り、農業を守ることがひとつにつながりました。

・姉齒報告の多角的な説明に多くのことを学びました。

・姉齒さんの話が印象深かった。食料というより経済の観点の話がよかった。

・大変参考・勉強になりました。ありがとうございました。特に姉齒先生の話に。農業（食料）と平和は切り離せないことが良く理解できました。

・講師の先生方の話が上手で、おもしろかった。対話も活発でよかったです。食料問題と9条の関係は、正直わかりにくいです。

・姉齒講演はすごい中味だった。これまでの食糧・農業問題の話の水準を超えている。憲法との関連においても、今日の社会のとらえ方においても。

・池長さんの話はそれなりにわかるが、問題は落ち着きのない職場でどう展望を切り開いていくかについて提起がほしかった。又、非正規研究者をどうするのかという課題についても展望がほしかったと思う。

・講演が始まる前は「食料問題」と「憲法9条の価値」という二つのキーワードがどのように結びつくのかと、少々疑問に思っていたのですが、講師である姉齒さんが非常に良く関連付けられ、説得力のある話しにまとめられたと思います。閉会挨拶で澤田さんも述べられていましたが、身近な問題をきちんと考えていくと、そのまま「9条の問題」に行き着くということかもしれません。

他の講演、聴衆の反応も含めて、とても雰囲気の良い有益な講演会になったと思います。講師の「食文化の衰退」という言葉を聴きながら、そのまま現在の大学・研究所が陥っている、深刻な「理科学研究の衰退」という言葉に当てはまるような感じを受けました。

08年12月7日現在
賛同者数 820名(0名)
()内は前号以降の増加数

事務局だより

○本会では「筑波研究学園都市研究所・大学関係9条の会アピール」への賛同署名を広くお願いしています。

http://peace.arrow.jp/tsc/i_home.php
にアクセスしてください

○「会」へのお問い合わせは

・茅野徳治：電話・Fax：029-857-6593

・e-mail：

岡田安正 spc873x9@comet.ocn.ne.jp

堀田博之 zkodaly@nifty.com